

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州\_2014(v.2.0)

<b>1 建物概要</b>						
建物名称	黒崎播磨株式会社 新物流倉庫	BEE	0.6	BEEランク	B-	★★

2 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価			
1 循環型社会への貢献	3.2 /5		ふつう			
2 地球温暖化対策の推進	3.6 /5		ふつう			
3 豊かな自然環境の確保	1.3 /5		がんばろう			
4 高齢社会への対応	##### /5		#DIV/0!			
<sup>※</sup> 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4点以上	ふつう 3点以上	がんばろう 3点未満		

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア						
使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.2.1)				
<b>1 循環型社会への貢献</b>			スコア平均 3.2			
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア	2.5	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア	3	
			Q2/ 3 対応性・更新性	スコア	4.2	
<自由記述> 屋根・外壁はビス止めまたは嵌合で納めている			<自由記述>			
<b>2 地球温暖化対策の推進</b>			スコア平均 3.7			
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア	4.3	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア	3	
<自由記述> エネルギーを使用する設備を最小限にしている			<自由記述>			
<b>3 豊かな自然環境の確保</b>			スコア平均 1.3			
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア	1	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2	
			LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	1	
<自由記述>			<自由記述>			
<b>4 高齢社会への対応</b>			スコア平均 #DIV/0! 主な指標			
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア		建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級			
<自由記述> 対象外			建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEIm値、住宅: -			
			0.34			
			外構緑化指数 0%			
			建物緑化指数 0%			

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	黒崎播磨株式会社 新物流倉庫	階数	地上2F
建設地	福岡県北九州市	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年7月 予定	評価の実施日	2017年11月15日
敷地面積	8,027 m <sup>2</sup>	作成者	江藤 均
建築面積	4,264 m <sup>2</sup>	確認日	2017年11月15日
延床面積	7,937 m <sup>2</sup>	確認者	大成 幸一郎



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.6**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30% ★★★★★ 60% ★★★★★ 80% ★★★★★ 100% ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 1.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.7

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合	倉庫であり、エネルギーの使用がほとんどないように計画	その他 特になし
Q1 室内環境	照明は最低限の照度を確保するにとどめ、換気は最小限の換気量とした	Q2 サービス性能 特になし
Q3 室外環境(敷地内)		Q3 室外環境(敷地内) 特になし
LR1 エネルギー	最小限の設備とした	LR2 資源・マテリアル 特になし
		LR3 敷地外環境 特になし

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**黒崎播磨株式会社 新物流倉庫**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.30</b>		-		<b>1.8</b>
<b>1 音環境</b>				<b>1.8</b>	0.15				<b>1.8</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>1.0</b>	0.40				
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40				
1 開口部遮音性能				3.0	1.00				
2 界壁遮音性能				-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-				
1.3 吸音				<b>1.0</b>	0.20				
<b>2 温熱環境</b>				<b>1.0</b>	0.35				<b>1.0</b>
2.1 室温制御				<b>1.0</b>	1.00				
1 室温				-	-				
2 外皮性能				1.0	1.00				
3 ゾーン別制御性				-	-				
2.2 湿度制御				-	-				
2.3 空調方式				-	-				
<b>3 光・視環境</b>				<b>1.8</b>	0.25				<b>1.8</b>
3.1 昼光利用				<b>1.8</b>	0.30				
1 昼光率				1.0	0.60				
2 方位別開口					-				
3 昼光利用設備				3.0	0.40				
3.2 グレア対策				<b>1.0</b>	0.30				
1 昼光制御				1.0	1.00				
3.3 照度				<b>2.0</b>	0.15				
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25				
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.0</b>	0.25				<b>3.0</b>
4.1 発生源対策				-	-				
1 化学汚染物質				-	-				
4.2 換気				-	-				
1 換気量				-	-				
2 自然換気性能				-	-				
3 取り入れ外気への配慮				-	-				
4.3 運用管理				<b>3.0</b>	1.00				
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	-				
2 喫煙の制御				3.0	1.00				
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>				<b>2.7</b>
<b>1 機能性</b>				<b>1.7</b>	0.40				<b>1.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ				-	-				
1 広さ・収納性				-	-				
2 高度情報通信設備対応				-	-				
3 バリアフリー計画				-	-				
1.2 心理性・快適性				<b>1.0</b>	0.50				
1 広さ感・景観				-	-				
2 リフレッシュスペース				-	-				
3 内装計画				1.0	1.00				
1.3 維持管理				<b>2.5</b>	0.50				
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50				
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>2.6</b>	0.30				<b>2.6</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.0</b>	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				<b>1.2</b>	0.20				
1 空調・換気設備				1.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20				
3 電気設備				1.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20				
5 通信・情報設備				1.0	0.20				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.2</b>	0.30		-	<b>4.2</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30		-	
1	階高のゆとり	1階は5.6m、2階は5.2mの階高とした	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ	必要最低限の壁量とし、ゆとりある空間とした	5.0	0.40		-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30		-	
			重量物を保管する倉庫の為、床耐荷重は3.0t/m <sup>2</sup> とした			-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.40		-	<b>1.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30		-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40		-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-		-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40		-	<b>4.0</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>				-		-	-
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.13		-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			[BEI][BEIm] = 0.34	0.63		-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.0</b>	0.25		-	<b>2.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.0</b>	1.00		-	
4.1	モニタリング			-		-	
4.2	運用管理体制		2.0	1.00		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1	モニタリング			-		-	
4.2	運用管理体制			-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30		-	<b>2.7</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.5</b>	0.60		-	<b>2.5</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.14		-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			-	-		-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.29		-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			1.0	0.29		-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			-	-		-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			4.0	0.29		-	
			屋根、外壁はビス止め及び嵌合で納めている			-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	1.00		-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			-	-		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	-		-	
3	冷媒		-	-		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30		-	<b>2.8</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>4.3</b>	0.33		-	<b>4.3</b>
			エネルギーを使用する設備がほとんどない			-	
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>1.5</b>	0.33		-	<b>1.5</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			-	-		-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>1.0</b>	0.67		-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.7</b>	0.33		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	敷地内の適切な駐車スペースを確保した	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.7</b>	0.33		-	<b>2.7</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.67		-	
1	騒音		3.0	0.50		-	
2	振動		3.0	0.50		-	
3	悪臭		-	-		-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			-	-		-	
1	風害の抑制		-	-		-	
2	砂塵の抑制			-		-	
3	日照障害の抑制			-		-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>2.3</b>	0.33		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		2.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	